

はじめに

平成 26 年度は、医療業界の今後に大きな影響を与える二つの出来事がありました。一つ目は、2 年に一度実施される診療報酬改定において、消費税率改定による負担増を差し引いた実質的な診療報酬が 6 年ぶりのマイナス改定となったことです。国が総医療費を抑制したことで、医療業界全体として、さらなる経営努力を求められることとなりました。

二つ目は、医療介護総合確保推進法が成立し、今後の国の医療制度改革の方向性が示されたことです。具体的には、地域において効率的かつ効果的な医療提供体制を確保するための地域医療構想を都道府県ごとに策定し、そのなかで医療圏ごとの医療ニーズに適合した機能別の入院病床数が示されるとともに、在宅医療機能の拡充を図る内容となっています。26 年度は、地域医療構想策定の前段として病床機能報告が実施され、当院は、引き続き急性期機能を担っていく旨の報告をいたしました。

このような国の推し進める改革に的確に対応しながらも、地域の急性期医療のニーズにこたえていくため、地域の医療機関との連携の強化に力を注いで参りました。具体的には、病診連携懇話会、登録医意見交換会、病院ネットワーク（箕面）懇話会などを継続して開催するなど、情報交換、意見交換を進め、その結果、連携医療機関は 363 機関（前年度 343 機関）と増加し、地域医療機関との連携度を示す指標である、紹介率、逆紹介率ともに向上することができました。

また、急性期の入院治療を必要とする患者さまを一人でも多く受け入れられる体制を整えるため、27 年度までを工期とする施設改修に着手しました。日帰り手術などの比較的軽症な患者さまの治療にあたる「（仮称）外来治療センター」の設置や、急性期病棟から回復期病棟への患者さまの転棟を効果的に運用するため、回復期病棟（3 階南病棟）の病室改修などを進めています。

同時に、診療を支える医療スタッフの確保にも引き続き取り組み、リハビリテーションスタッフなどを増員することができました。これにより、リハビリテーションなどの医療体制が充実し、より高度で安全・安心な診療を行えるようになりました。

さて、26 年度の経営状況ですが、約 24 億 9 千万円の大きな赤字を計上することとなりました。これは、公営企業会計制度の新基準への移行処理として退職給与引当金を一括して引き当てたことなどの一時的な理由によるものです。この会計制度変更の影響額を除いた収支差は、約 4 億 7 千万円の赤字となっており、改革プランに取り組んだ 21 年度以降、初めて目標額を下回る結果となりました。

今後は、改革プランの目標を再び達成できるよう経営努力をすすめるとともに、自治体病院としての役割を果たし、「地域の皆さまに信頼され、愛される病院」として地域医療に貢献してまいります。

平成 27 年 8 月

箕面市病院事業管理者 重松 剛
箕面市立病院総長 田村 信司
箕面市立病院病院長 黒川 英司